



いな だ か ず み  
**稲田和巳** さん

**2022年**  
**読売書き初めコンクール 特選**

【審査委員講評】  
豊かでどっしりとした重みのある  
線で伸び伸びしています。  
堂々として素晴らしい。

**2** 022年読売書き初めコンクールで作品が見事、特選に選ばれた熊野小学校3年生の稲田和巳さんを紹介します。  
毎年秋に、全国の小中高校生を対象として、自由なテーマで未発表の書き初め作品を募っているこのコンクール。  
応募総数2,275点の中から、特選4点、入選12点、佳作60点が選ばれ、稲田さんの作品は小学生低学年で唯一、特選に輝きました。

書道教室の先生に良くないところを指摘されたときは、書道教室や家ごとにかく繰り返し練習する稲田さん。  
その努力が実り、作品がこのコンクールで特選に選ばれたとき、「驚いたというよりうれしいと思った」そうです。  
稲田さんには、書道を始めるきっかけを作ってくれたお姉ちゃんがいます。「今後の目標はお姉ちゃんを越える、全国1位をあと2回以上取ることです」と意気込みを話してくれました。



▲四尺画仙の書道紙に、大きな筆を使って書きました。



定例記者会見の様子

## 手話の共有で 優しい街を



## 市長コラム 希望の風

市長の部屋

皆さんこんにちは！ 前田晋太郎です。下関にも、生まれながらや不慮の事故で、言葉を聞いたり話したりすることができない方々がたくさんおられます。そのような方々が、今まで以上に文字や手話で、コミュニケーションができ、情報を得ることができ、世の中をつくりたいという思いで、昨年4月から下関市手話言語条例をスタートしました。手話の一つの言葉として認識し、市民全員で共有することが最大の目標であります。

私も現在手話を定期的に学んでいます。少しずつですが、自分で伝えること、その手話が何を伝えようとしているのかを理解できるようになりました。

毎週行われる市長定例記者会見でも、隣で手話通訳の方にお手伝いいただいていますし、市政テレビ番組に毎回手話を導入することもスタートしました。

これからは、子どもたちにも同様に手話を学ぶ機会をつくりたいと思います。手話を使う方の気持ちや伝わり、優しい大人に成長するきっかけになってほしいと願っています。

皆さんもあいさつからでも手話を覚えてみませんか？手話に対する理解を広めて、やさしさあふれる下関市をみんなでつくっていきましょう！皆さんのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。